

『良い椅子の日』セレモニー レポート (4月14日、せんとびゅあⅡにて)

●「良い椅子の日」の宣言にあたって — 東川町長 松岡市郎

「椅子の日」宣言から、いろいろなことを考える日にしてほしいと願っています。自分の椅子に座って仕事や学習をする。家族団らん、オリンピックや日本ハムファイターズを椅子に座って応援する。あるいは音楽を聴き本を読むなど。椅子は自分を、家族を、地域を、そして日本を幸せにしてくれるのではないかと思います。



一、自分を支えてくれる椅子に感謝をする日

椅子は、幼児からシニアまで、人生で一番使い、お世話になっているもの。そして、喜怒哀楽に黙って耐えてくれているものです。

二、自分の椅子を考え、選択する日

椅子は、職業の総称とも言われます。将来こんな椅子につきたい、という志を確認する日であってほしい。また、自分に最も適した椅子はどんなものかを考え、選ぶ日であってほしい。

三、自分がお世話になった方々に対し、椅子を贈る日

祖父母、両親、孫、子に、送り手の心がしっかり刻まれた世界に一つしかない“オリジナル”な椅子を贈る日であってほしい。

●「隈研吾デザインの椅子」について — 建築家 隈研吾氏

椅子の日に合わせ、「これからの東川の家具の道標のような面白いデザインを」とのオファーを受け、意欲的で技と挑戦精神がある東川の職人なら無理難題でも実現できると思いデザインしました。東川の工房はそれぞれが「哲学」をもっていて、雰囲気が違うのが素敵です。多様性と活気があるのを感じました。今はまだ試作品なので、これをさらに磨いて、本当に世界に類のない椅子に仕立てていきたいと思っています。

今、世界は大量生産の時代から、クラフトマンシップ（手作りのもの＝哲学あるもの）に大きく舵を切ろうとしています。東川はそうした新しい時代の流れの一つの象徴になりえる場所だということを、この家具作りを通じて世界に発信していきたいと思っています。



▲共に椅子の製作にあたった職人のみなさんと

●隈研吾トークショー『集中から分散への折り返し点』

これから世の中は、どう変わっていくのでしょうか。コロナ後というのは、「転換点」というより「折り返し点」だと思っています。例えば阪神淡路大震災や3.11（東日本大震災）は転換点と言われますが、コロナは「自分の命も危ない」と初めて全世界同時に危機を感じた出来事です。こんなことは人類史上ありませんでした。その意味で「折り返し点」で、歴史の流れが大きく変わるはずですよ。

今までの流れは、一言でいえば「集中」でした。移住生活の狩猟採集生活から、一カ所に留まる農業社会へ。そして交換（交易）や工業が始まって町ができ、大都市に高層ビルが建ったのが20世紀初頭。「集中化」がある意味、20世紀の行きついたところでした。

しかし、この集中化が人にとって本当に良いのか、人が生息する環境が持たないのではないかと、ことに気づかせてくれたのがコロナなのではないでしょうか。

集中の反対は「分散」です。分散して大都市で人間が味わってきたストレスや疲れを癒す。多くの人がそれを本当に求めるようになりました。そんな時代に、東川と言うのは分散する場所として非常に適しており、面白いと感じています。東川の面白さは、自然豊かでありつつ中心部は“歩ける街”になっていること。これからの世界の町のテーマの一つは「ウォーカビリティ」、つまり「歩けること、歩いていて楽しいこと」。

東川町はいろいろな魅力と可能性を秘めています。KAGUの家、KAGUデザインコンペ、デザインミュージアム構想などを通し、これから一緒に、この町を盛り上げていきたいと思っています。



「椅子の日」宣言



旭川家具の主要な産地の一つである東川町は、多くの家具職人が集い、その匠達が高い技術と優れたデザイン力により、芸術性高い家具を作り続けており、世界から認められるモノづくりの産地へと成長しました。

東川町で暮らす子どもたちは、産声とともに「君の椅子」に迎えられ、家具職人手作りの「学童用机・椅子」とともに小学校生活を送り、中学校卒業時にはともに学んだ「自分の椅子」を思い出と一緒に持ち帰るなど、成長のそばにはいつも柔らかな木のぬくもりあふれる椅子があります。また、誰もがせんとびゅあなど町のいたるところで「ホンモノの家具」に触れ、家具のある暮らしを実感することができます。

地域に暮らす私達は、小さな頃から暮らしの中で本物に触れ、家具・クラフト、芸術、デザインと言う文化を通して感性を磨き、その心を育むことが大切な教育となっています。

コロナ禍により、大都市一極集中への警鐘が鳴らされ、仕事の仕方や暮らし方が見直されている今、過密社会から適疎社会へ、垂直社会から水平社会へ、そして、コンクリート社会から木造社会へと時代が変わろうとしています。

新しいライフスタイルが模索されている今、全国の皆様に向け、これらの暮らしを育む文化“東川スタイル”を通じて、未来の社会のあり方を考えるきっかけづくりとして「椅子の日」を制定し、家具や椅子に感謝する習慣と文化を創造するとともに、地域の家具産業の振興を図ることをここに誓い、宣言いたします。

2021年4月14日

写真文化首都「写真の町」北海道東川町